

パステルで優しく描いた壁画を紹介する松永さん。(広島市中区のほむけクリニック)



アート ヒーリング

芸術で心の癒やしや安らぐ空間づくりを目指す「ヒーリングアート」。その効果にいち早く注目した先駆者として、ノーベル医学生理学賞を受賞した北里大特別栄誉教授の大村智さん(82)が知られる。広島でもヒーリングアートの試みが増えつつある。

(鈴木大介)

心に癒やしを

広島のクリニック 壁画に人生模様

安らぎ空間を



夢中になってパステルアートに取り組む子どもたち

思い込め創作体験も

対象は医療や福祉の現場にとどまらず、企業や学校にも広がっている。女子美術大の山野雅之教授は「殺風景な環境をアートで改善することで、不安や痛みを和らげるだけでなくコミュニケーションが生まれるきっかけにもなる」と力を込めた。

大村さんが開設に関わった北里大メデイカルセンター(埼玉)は、廊下や待合室に約300点の絵が飾られ、「絵のある病院」として知られる。また、女子美術大(東京)では「ヒーリング表現領域」という専攻を設け、癒やしやストレス緩和に導くアートやデザインの可能性を追求する。

松永さんは6年前にカラーセラピーの要素を取り入れたパステルアートに出合った。子育てなどが忙しく疲れていた時期で、絵や色彩が心を豊かにする力を実感した。パステルによるヒーリングアートを独自に学び、昨年9月に協会を立ち上げた。ヒーリングアートは、見て感じるだけでなく、創作を体験する手法もある。今月上旬に同クリニックで開いた教室では、親子が思い思いにパステルの色を選び、脱脂綿などを使ってカーネーションを描いた。松永さんは「言葉では言い表せない気持ちを色に込め、解放されるような感覚にもなれる」と話す。

広島市中区の「ほむけクリニック」に4月、壁画がお目見えした。診察室のある2階までの階段の壁を、温かみのある色合いの絵の具、パステルを使って優しく彩っている。人が生まれ、困難を乗り越えて成長し、老いていく道のりを、物語のように表現したという。

【病院でのアンケート】

ほむけクリニックの階段壁画(パステルヒーリングアート®)を御覧になられたの印象はいかがでしたか？

- 1.とても良い 18名/30名中
- 2.良い 3名/30名中
- 3.普通 4名/30名中
- 4.なんともない 0名/30名中
- 5.良くない 0名/30名中

